

水彩画教室 「七島八島／長野県霧ヶ峰八島湿原」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

この場所には思い出があります。中学1年の林間学校で、初めて訪れた時です。学年担当の地理の先生が一人一枚の地形図を配って、このあたりの地理や地質について事前に詳しく教えてくれたのです。黒曜石や鉄平石（輝石安山岩）を拾えることも知りました。すでに「高層化」が進み、「湿原」というよりもほとんど「草原」になっています。それでも駐車場に近い一角には「池塘（ちとう）」があり、いわゆる「浮島」が点在しています。その景観から「七島八島（ななしまやしま）」とも呼ばれています。遠くに見えるのは霧ヶ峰の主峰「車山（くるまやま）」で、山頂の建造物は「気象レーダーのドーム」です。私は浮島というのは本当に池に浮いていて、風や水流で場所を変えたり、大きさも変化するのだと思っていました。しかし、何十年も前の航空写真と今の様子を比較しても、ほとんど変化がないのです。「浮島」とは言っても、実は水草の根や茎で水底に「係留」されているのかも知れません。



これが完成した絵です



1、下絵は湿原を主題にして 空部分は4分の1ぐらいにしました 一部分だけ詳細に描かないように



4、遠くの山の緑の濃い部分を加えていきます



2、空は青2色のグラデーションで 遠くの山と手前の植物は まずは薄く面的に塗っておきます



5、全体のバランスに気を付けながら 少しずつ濃くしていきます



3、少しずつ色を重ねていきます 画全体に色を平等に置きます



6、陸地と池塘（ちとう）の境目は影にします 最後に白い花を描き加えて完成です